



童子雛 十五人揃 昭和23年

五代目弥兵衛が長女弘子初雛のために注文。女雛と男雛、三人官女(女官)、五人囃子(能囃子方・地謡)、隨身(武官)、仕丁(雑職)。



豊前国(大分県)江上家から寄贈された塗り物

昨年十月、「御前酒 1859」はパリで開催された『SALON DU SAKE 2025』においてグランプリを受賞いたしました。時を遡れば、毎春、奥座敷如意山房に飾られる『丸平』の雛人形師 四世 大木平蔵氏もまた、明治二十二年のパリ万国博覧会に出品し、金賞を受賞しています。

日本酒と雛人形――。時を越えて日本伝統文化のエスプリが、世界の文化の中心地。パリにて国際的に認められたことは、この上ない喜びであります。

『丸平』の雛人形は、文豪谷崎潤一郎が勝山に疎開中に執筆した小説『細雪』にも登場します。「昔、悦子の初雛の時、京都の丸平で作らせたもの」 大阪・船場の時岡家の雛まつりの一節に、その名を見る事ができます。

さらに昨年、「勝山のお雛まつり」実行委員会が『第26回岡山芸術文化賞 地域貢献賞』を受賞いたしました。毎春、足を運んでくださる皆さまへの感謝と共に、この喜びを分かち合いたいと存じます。

本年は加えて、縁あつて豊前国(大分県)江上家より寄贈された塗り物も展示し、皆さまをお迎えいたします。

丸平大木人形店
まるへいおおき

江戸時代、安永八年(1779年)創業の京の老舗人形店。有職故実にのつとつた衣裳や着付け・細部のつに至るまで、織細で優美。時代を反映した気品あふれる名匠の力量がうかがえます。頭、髪付け、手足、小道具、金襷、造花などすべてに最高の職人たちの技を結集したその人形工芸品は古くから宮中や財閥、各家の人々に愛され、丸平でお人形を眺えることは、ひとつのステータスシンボルとされてきました。当蔵元は雛人形に加え、嫡子の誕生をお祝いした五月人形etc.も所蔵しております。



蔵元のお雛まつり 2026 時をつなぐ蔵雛飾り

—ふたつの受賞の喜びと共に—

2026年2月27日(金)～3月3日(火)

にょいさんぽう
蔵元の奥座敷「如意山房」

10時～15時 入場料: 500円



内裏雛・三人官女 四代目辻 源一郎 長女寿美子 初雛
四代 大木平蔵 大正元年制作

サロンドサケ2025
最高賞
グランプリ受賞!



第26回
岡山芸術文化賞
地域貢献賞受賞



同時開催 | 第28回 勝山のお雛まつり 2/27～3/3

ひしおのお雛まつり2026「明石麻里子展」2/22～3/22(水曜休館)